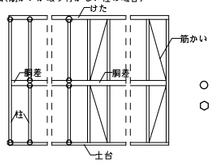
特記仕様書　（木工事）　軸組工法

柱と横架材

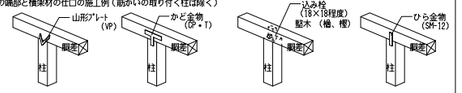
仕口の分類（筋かいが取り付かない柱の場合）



○：筋かいの取り付かない柱と横架材の仕口位置

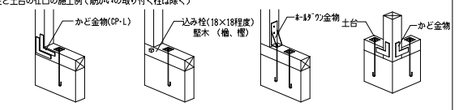
○：筋かいの取り付かない隅柱と横架材の仕口位置

柱の端部と横架材の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱は除く）



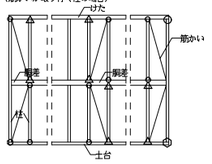
イ．柱頭ほぞをし、山形ﾌﾟﾚｰﾄ（VP）当て釘打ち　ロ．短柱はほぞ差しかど金物当て釘打ち　ハ．長ほぞ差し込み せん打ち　ニ．短柱はほぞ差しひら金物当て釘打ち

隅柱と土台の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱は除く）



イ．短ほぞ差しかど金物 2枚当て釘打ち　ロ．長ほぞ差し込み せん釘打ち　ハ．ホールダウン金物による緊結　ニ．落としありかど金物2枚当て釘打ち

仕口の分類（筋かいが取り付く柱の場合）



○：筋かいの上端部が取り付く柱と横架材の仕口位置

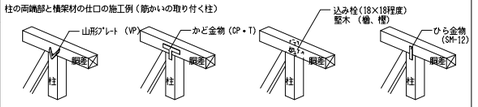
△：筋かいの下端部が取り付く柱と横架材の仕口位置

⬡：筋かいの取り付く隅柱と土台の仕口位置

1階管柱と2階の柱の緊結

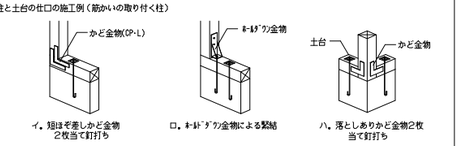
外周部の主要な隅角部の柱及び構造計算による引き抜き応力が大きい2階の柱は、1階の管柱と接合金物（ホールダウン金物）で緊結する。

柱の両端部と横架材の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱）



イ．柱頭ほぞをし、山形ﾌﾟﾚｰﾄ（VP）当て釘打ち　ロ．短柱はほぞ差しかど金物当て釘打ち　ハ．長ほぞ差し込みせん打ち　ニ．短柱はほぞ差しひら金物当て釘打ち

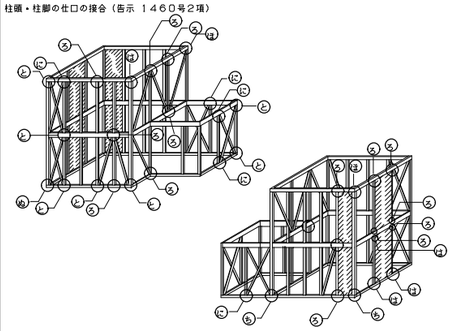
隅柱と土台の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱）



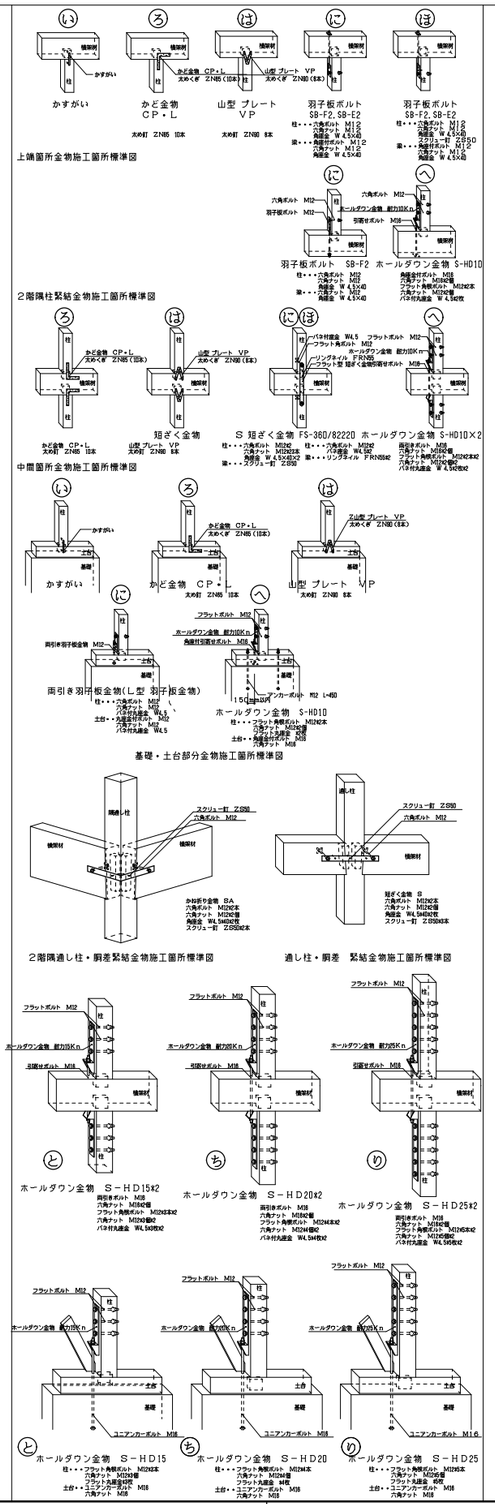
イ．短ほぞ差しかど金物 2枚当て釘打ち　ロ．ホールダウン金物による緊結　ハ．落としありかど金物2枚当て釘打ち

接合金物

柱頭・柱脚の仕口の接合（告示 １４６０号２項）



金　物



金　物

種類・記号	形状・寸法（単位mm） 使用接合具	用途・使い方
火打金物 HB	【寸法・形状】 ◎使用接合具 平くぎ2.75S5 小型角座金W2.3×30 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W1.5×40	◎用途　床組及び小屋組の隅角部の補強
ひら金物 SM-12	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65	◎用途　かすがいと同様の用途
ひら金物 SM-40	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65	◎用途　管柱の連結等
筋かいプレート BP	【寸法・形状】 ◎使用接合具 角根平面ボルトM12 小型角座金W2.3×30 六角ナットM12 太めくぎZN65	◎用途　筋かいを柱と横架材に同時に接合 角根平面ボルトM12
羽子板ボルト SB・E	【寸法・形状】 ◎使用接合具 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W1.5×40 スクリューくぎZS50	◎用途　小屋ばりと軒桁 軒桁と柱、胴差と 通し柱の連結 はり 軒げた 羽子板ボルト
かね折り金物 SA	【寸法・形状】 ◎使用接合具 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W1.5×40 スクリューくぎZS50	◎用途　通し柱と胴差の取合 隅通し柱 横架材 横架材
ひねり金物 ST	【寸法・形状】 （右ひねりのみ） ST-9, ST-12 ST-15 ◎使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】たるきと軒げた、または、もやとの接合 【使い方】 垂木 ひねり金物 勾配5/10以上 垂木 斜桁 桁 ひねり金物 ST-9, ST-12
折曲げ金物 SF （右ひねり及び左ひねり）	【寸法・形状】 右ひねり　左ひねり ◎使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】 垂木 斜桁 折曲げ金物（右ひねり） SF（右ひねり） 垂木 斜桁 折曲げ金物（左ひねり） SF（左ひねり）
くら金物 SS	【寸法・形状】 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】 垂木 斜桁 くら金物 SS くら金物 SS 軒先側の取付け例 垂木 斜桁 SS 棟側の取付け例
かど金物 CP・L CP・T	【寸法・形状】 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN65	【用途】引張りをうける柱と土台・横架材の接合 【使い方】 横架材 隅柱 かど金物 CP-L 土台 かど金物 CP-T 柱 筋かい CP・T アンカーボルト M12 L=400 CP・L 柱 かど金物 CP-T 土台 土台

小屋梁

材　種　□ はり（丸太）　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ その他（　　）
　　□ はり（その他）　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ その他（　　）

工　法　1，末口135mm以上の丸太の継手は、受材上で台持継ぎとし、下木に太柄ｸﾞｻを植え込み、
2，六角ボルト(M12)2本締めとする。受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。
3，末口135mm以下の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、六角ボルト(M12)2本締めとする。
4，受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。
5，軒桁又は敷桁との仕口は、かぶと蟻掛け又は渡りあごとし、羽子板ボルト締めとする。

小屋束

材　種　□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　■ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他(　　)

工　法　上部・下部の仕口は、短柄差しとし、かすがい両面打ちとする。

棟木・母屋

材　種　□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　■ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他(集成材)

工　法　垂木当たりの欠き込みを考慮して適切な断面寸法とし、継手は束の位置を避け、持ち出し腰掛け鎌継ぎとする。

桁行すじかい・振れ止め

材　種　□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他(　　)

工　法　束に添えつけ、N50釘2本打ちとする。
振れ止めの断面寸法は貫程度とする。

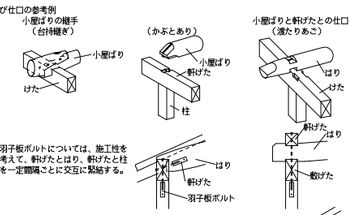
垂　木

材　種　□ すぎ　□ひのき　□ あかまつ　□ くろまつ　■ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他

工　法　1，継手は乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、釘2本打ちとする。軒先部以外の留め付けは、
2，受け材当たりN75釘で両面を斜め打ちとする。ただし、垂木のせいが45mm程度の場合は、
N100釘を脳天打ちとすることができる。
3，軒先部の留め付けは、桁へひねり金物(ST)、折曲げ金物(SF)、又はくら金物(SS)を当て釘打ちとする。
4，瓦葺葺き屋根の場合の垂木間隔は、瓦棒の留め付け幅と同一とする。

小屋組

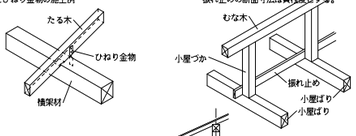
継手及び仕口の参考例



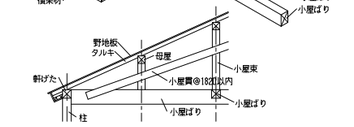
（注）羽子板ボルトについては、施工性を考えて、軒げたとはり、軒げたと柱を一定間隔ごとに交互に緊結する。

垂　木

たる木とひねり金物の施工例



棟木・母屋



設計監理　ＲＹＯ設計株式会社
〒 640-8328　和歌山市木広町４丁目８番地
TEL 073-427-2951　FAX 073-427-3951

RYO ASSOCIATED ARCHITECT
１級建築士登録番号　第125982号　松本良ニ
１級建築士事務所登録　第（り）２７８

（仮称）蒲郡すみれ　看護小規模多機能
新築工事

DRAWING TITLE　木造特記仕様書②
CHEET No.
SCALE　1/100
DATE
DESIGNER
No.　S14

2025年 7月28日出力